

TOP MUSEUM

東京都写真美術館ニュース
eyes 96

愛について
アジアン・コンテンポラリー



愛について アジアン・コンテンポラリー

I know something about love, asian contemporary photography



左)金仁淑《息子と私》(サイエソ:はざまから)より、2008年 東京都写真美術館蔵 ©金仁淑

右)ホウ・ルル・シュウズ《尚久菊(シャン・ジョウジュ)》と陸録(ルー・ドゥウオ) 01》(高雄眷村三部曲エピソード1:ここは私たちの出会う場所(勵志新村))より、2012年 作家蔵 ©Lulu Shur-tzy Hou

「愛について アジアン・コンテンポラリー」は、現代の写真家を数多く紹介してきた東京都写真美術館でも、初めての試みとなるアジアの女性作家によるグループ展。出展作家たちの出身国だけでなく、ベテランから若手まで世代は多岐にわたり、作品のスタイルもまちまちだが、この展覧会は一つの大きな問題意識のもとに構成されているという。企画者である笠原美智子氏に、「愛について」という言葉に込めた思いや、招聘した作家について伺った。

— 展覧会名にある「愛について」とは、どういった意味なのでしょう？

人間同士の関係、例えば親子や恋人など、さまざまな関わりを持ちながら私たちは生きていますが、疎外された関係に悩まされることもあれば、「他者の視線」から免れない環境に置かれてもいるわけです。私に関していえば、「私という未知へ向かって 現代女性セルフ・ポートレート」展(1991年)をこの東京都写真美術館の学芸員として初めて企画したときから、特に



ジェンダーの問題に注目した女性作家の展覧会を手がけてきましたが、これまで取り上げてきた作家たちが何を考えて作品を制作しているのかをあらためて考えてみたときに、この「愛について」という言葉が出てきたんです。ここに、人間関係にまつわること全てが含まれているのではないかと思います。

— 今回、アジアの女性作家を取り上げた理由は？

はじめに矛盾するようなことを言ってしまうと、これだけグローバリズムと情報化が徹底して進んでいる現代では、ある地域を区切って土地の特性を浮かび上がらせることは不可能に近いと思っています。しかし、そういう状況でありながら、日本ではアジアの作家が紹介される機会が非常に少なく、特に女性作家の作品を見る機会は極めて限られているといえます。

— アーティスト全体に占める女性と男性の比率からしてみたら、明らかに偏っていますね。

日本のジェンダーギャップ指数(世界経済フォーラムが2017年11月公表)が144カ国中114位だというよ

うな情報は、たくさん入って来るわけです。しかし、現状を変えたくない人々には無視されてしまう。だから、問題意識を持っている者や困っている当事者が自覚的に声を上げていかなきゃいけないんです。この展覧会は、そういった状況に対する問題提起でもあります。

— 出展作家について教えてください。まず、韓国で活躍されている作家さんが2名いらっしゃいますね。

キム・オクソンは韓国の中でも中堅からベテランに位置付けられる作家で、ドイツ人の方と結婚して済州島に暮らしながら作品を制作しています。《ハッピー・トゥゲザー》(2000-04年)では、韓国の女性と外国人



キム・オクソン《ヒロヨとマイケル 2》(ハッピー・トゥゲザー)より、2004年 東京都写真美術館蔵 ©Oksun KIM(表紙は部分)

出品作家

金仁淑(キム・インスク) Kim Insook

1978年大阪生まれ。在日コリアン3世。漢城大学芸術大学院(ソウル)西洋画科写真映像コース修了。(日本に帰ってきたから)《サイエソ:はざまから》(2008年)などでは、いくつもの文化の狭間に生きる人々のアイデンティティやコミュニティ、民族、家族の問題を浮き彫りにしている。

ホウ・ルル・シュウズ(侯淑姿) Hou Lulu Shur-tzy

1962年台湾・嘉義生まれ。ロチェスター工科大学(ニューヨーク州)で芸術学修士号取得。現在、国立高雄大学クリエイティブ・デザイン・建築学部助教として教鞭を執っている。高雄の基地の街で暮らす人々をテーマとした《高雄眷村三部曲》(2010-17年)などがある。

キム・オクソン(金玉善) Kim Oksun

1967年韓国・ソウル生まれ。済州島在住。弘益大学大学院(ソウル)産業デザイン科修士課程修了。韓国・済州島に住む外国人と結婚したカップルを撮った《ハッピー・トゥゲザー》(2000-04年)のシリーズで知られる、韓国を代表する写真家の一人。

の夫やパートナーとのカップルを被写体に、彼らの間にある緊張関係、一つの文化の中に異なるものが入って来たときに起こる衝突や違和感といったものを視覚化するという、かなり難しいことを行っています。非常にプライベートな動機から始まった彼女の作品制作ですが、今は済州島の植生を被写体に、外来種が根づいていくということの意味を《輝くもの》(2011年-)シリーズで撮り続けています。

金仁淑は在日韓国人として大阪で育ち、朝鮮学校で教育を受けた作家です。自身のアイデンティティが日本にあるのか韓国にあるのかという問題が常につきまとうわけですが、それを彼女はポジティブに受け取っている。《リアルウェディング》(2008年-)では、自分の結婚式で披露宴を日本と韓国で行い、それを映像と写真で撮って、一つの作品にまとめているんですが、創作して盛り込んだいかにも風習のような演出を、作品を見た方は昔からある本当の韓国のしきたりだと思ってしまったそうです。伝統や風習は、常に変わっていくものだとすることを自覚的に作品に取り込んでいる。在日韓国人の方々はレッテルを貼られ、常に政治的に評価されてしまう立場に置かれていますが、彼女の作品はそれを取り扱う作業でもあるんですね。

— ホウ・ルル・シュウズは台湾を代表する作家ですね？

この展覧会で取り上げる《高雄眷村三部曲》シリーズは、眷村と呼ばれる元兵士たちの村をドキュメントした作品です。作家のステートメントによると、第二次世界大戦後に中国から、当時の国民政府と共に台湾に渡った軍人とその家族のために、政府が用意した村のことを眷村と呼ぶのだそうです。そして、十数年ほど前

には、それを取り壊す法律ができた。彼らは過酷な歴史に翻弄され続け、二重、三重に故郷を奪われるという状況になっているんですね。マジョリティの側にいると思われた軍人が、結果的にマイノリティの側に押しやられているという、そういう歴史的な出来事を記録しておかなければならないと、彼女はここ十年くらい撮り続けているんです。

— 中国の作家チェン・ズは、日本の若者にとっても珍しい自傷行為を作品にしていますね？

彼女は中国の北京に在住する30代手前の作家で、自身はずっとリストカットिंगをしてきたことから、〈蜜蜂〉シリーズ(2010-17年)ではセルフポートレートだけでなく、同じ行為をする人たちを写真に撮っています。自傷というのは、実は死から遠ざかる、つまり自分自身を生かすための行為なんですね。中国が抱える問題、女性の置かれている位置とか働き方とか、プレッシャーというものに対する一つの異議申し立てを作品で表明していますが、彼女は若者たちの自傷を中国だけの問題だとは思っていないんです。

— シンガポールのジェラルディン・カンも、若いながらキャリアの長い作家だそうですね？

彼女はいろいろな種類の作品をつくっていて、新しい作品になるほど社会性を帯びるんですが、今回は学生時代の作品〈ありのまま〉(2010-11年)を取り上げています。この作品は演出された家族の肖像で、祖母や母親、ずっと一緒に暮らしている家政婦の女性、さらに父親などに指示を出しているいろいろな場面をつくっているんですが、そのプロセスが一番大事なんです。家族の関係がうまく



チェン・ズ『蜜蜂 #065-01』(蜜蜂)より、2010年 作家蔵 ©Chen Zhe



ジェラルディン・カン『08:33(ありのまま)』より、2010年 作家蔵 ©Geraldine Kang

いっていたらこういう作品はつくりたいし、逆にこれをする事によって、家族の自分に対する理解と、自身の家族に対する理解に貢献しているわけです。

— 現在の展覧会担当の山田裕里学芸員が日本人作家の須藤絢乃を加えています。実際に行方不明になった少女たちの残された情報をもとに、自身がなり替わって撮影した

セルフ・ポートレート作品〈幻影 Gespenster〉で、2014年度写真新世紀でグランプリを受賞した新世代の作家さんですね。

彼女が選ばれて、とてもよかったと思っています。私が東京都写真美術館を退職した後、展覧会を引き継いだのは平成生まれの学芸員ですが、同世代の作家に対する理解は60歳の私とは違うと思うんです。この展覧会に新旧二つの理解が入ったことで、幅広く何重にも意味を持たせることができたと思います。

(2018年6月 インタビューと文 富田秋子)



笠原 美智子
かさほら みちこ

1957年長野県生まれ。1983年明治学院大学社会学部社会学科卒業。87年シカゴ・コロンビア大学大学院修士課程修了(写真専攻)。東京都写真美術館、東京都現代美術館にて学芸員を務め、現職は公益財団法人石橋財団ブリヂストン美術館副館長。日本で初めてのフェミニズムの視点からの企画展「私という未知へ向かって 現代女性セルフ・ポートレイト展(91年)ほか、ジェンダーの視点からの展示を多数企画。著書に『ジェンダー写真論 1991-2017』(里山社、2018年)ほか多数。本展企画者。



須藤絢乃『幻影 Gespenster』より、2013年 作家蔵 ©Ayano Sudo/須藤絢乃 courtesy MEM, Tokyo

愛について アジアン・コンテンポラリー

I know something about love, asian contemporary photography

2F 2018.10.2|火| - 11.25|日|

発展と変容が著しいアジア。現代写真・美術の世界においても、アジアに向けられる視線はますます熱くなっています。本展は家族、セクシュアリティ、ジェンダーのあり方に焦点をあて、変わりゆくアジアの現在を紹介します。出展作家は、中国、シンガポール、台湾、韓国、在日コリアン、そして日本の女性アーティストによって構成されています。国も年齢もアーティストとしてのキャリアも異なる彼女たちの作品は、アジアン・コンテンポラリーとして高い評価を得ているという共通点以上に、女性の価値観が様々に変容するアジアの“今”を共有しています。彼女たちはそれぞれの現実を直視し、それぞれの“今”に思いを巡らせながら走り続けています。その眼差しとの奥底にあるもの、それは「愛について」。

| 関連イベント

①アーティスト対談(逐次通訳付)
ホウ・ルル・シュウズ×キム・オクソン
[日時] 2018.10.4(木) 18:00-20:00
チェン・ズ×ジェラルディン・カン
[日時] 2018.10.5(金) 18:00-20:00
金仁淑×須藤絢乃
[日時] 2018.11.17(土) 15:30-17:00

②ゲスト対談

小勝禮子(近現代美術史・美術批評)×
笠原美智子(石橋財団ブリヂストン美術館 副館長、
前・東京都写真美術館事業企画課長)
[日時] 2018.10.13(土) 15:30-17:00

①②とも

[会場] 東京都写真美術館 1階スタジオ
[定員] 各50名(整理番号順入場/自由席)
[入場料] 無料/要入場整理券
*当日10時より1階総合受付にて整理券を配布します。

| 担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2・第4金曜日14:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

「愛について」特設サイト オープン! www.aboutlove.asia

作家インタビューをはじめ、アジアの今を感じるコンテンツがいっぱいです。

音声ガイド

小野大輔(声優) 貸出料金 540円(税込)

出品作家

チェン・ズ(陳哲) Chen Zhe

1989年中国・北京生まれ。アート・センター・カレッジ・オブ・デザイン(ロサンゼルス)卒業。第3回三影堂撮影大賞(2011年)をはじめ多くの国際賞を受賞し、最も注目されている中国の女性アーティストである。主な作品に自傷行為をテーマにした作品〈蜜蜂〉などがある。

ジェラルディン・カン Geraldine Kang

1988年シンガポール生まれ。現在、パソンズ・スクール・オブ・デザイン大学院(ニューヨーク)在学中。大学のプロジェクトとして制作したファミリー・ポートレイト〈ありのまま〉(2010-11年)で注目を浴び、若手の注目作家としてきわめて旺盛な制作活動を展開している。

須藤絢乃 Sudo Ayano

1986年大阪生まれ。京都市立芸術大学大学院修士課程修了。キャンオン写真新世紀2014グランプリ受賞。主な作品に、実在する行方不明の女の子に扮して撮影したセルフポートレイト〈幻影 Gespenster〉(2013-14年)などがあり、国内外で注目を集めている。

[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/東京新聞 [協賛] 東京都写真美術館支援会員/凸版印刷株式会社/資生堂
[観覧料] 一般 800(640)円/学生 700(560)円/中高生・65歳以上 600(480)円 ※()は20名以上の団体料金

TOPコレクション たのしむ、まなぶ 夢のかけら

TOP Collection: Learning The Fragments of Dreams

3F 2018.8.11 | 土・祝 | - 11.4 | 日 |

TOPコレクションは、東京都写真美術館の収蔵作品を紹介する展覧会です。今年のテーマは「たのしむ、まなぶ」。本展では「作品」という名の夢のかけらを手がかりにして、自由で、新鮮な驚きのある作品体験へと観客の皆様を誘います。「人と人をつなぐ」、「わからないことの楽しさ」、「ものがたる」、「時間の円環」をはじめ、展示を8つのセクションに分けて、34,000点以上におよぶコレクションの中から選りすぐった古今東西の名品を紹介します。近年、企業や学校でも注目されている鑑賞教育の視点から、作品の見方を深めるためのワークショップやイベントも多数開催します。

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2・第4金曜日16:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

手話通訳つきギャラリートーク

上記のギャラリートークのうち、第2金曜日は手話通訳つきで行います。

[日時] 2018.9.14(金)、10.12(金)いずれも16:00より
展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。



山田 實《手をつないで 糸満漁港》1960年
ゼラチン・シルバー・プリント 東京都写真美術館蔵

[主催] 東京都 東京都写真美術館 [協賛] 凸版印刷株式会社

[観覧料] 一般 500(400)円 / 学生 400(320)円 / 中学生・65歳以上 250(200)円 ※()は20名以上の団体料金、8月31日(金)までの木・金曜日18:00-21:00は学生・中学生無料 / 一般・65歳以上は団体料金(※各種割引の併用はできません) ※10月1日(月・都民の日)は入場無料

スタンプラリー開催中!
詳細はコチラ▶



ジャック・アンリ・ラルティエグ《デスピオ、アンダイ》1927年
ゼラチン・シルバー・プリント 東京都写真美術館蔵

関連イベント

じっくり見たり、つくったりしよう!

暗室での写真作品の制作を体験したり、展示室で作品について楽しく話したり、一度にさまざまな体験ができるプログラムです。
*作品解説ではありません。

[日時] 2018.10.28(日) 10:30-13:00

[対象] 小学生とその保護者(2人1組)

[定員] 10組、先着順

[参加費] 800円(別途本展観覧チケットが必要です)

視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

障害の有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、言葉を交わしながら一緒に美術を鑑賞するワークショップです。

[日時] 2018.9.2(日)、10.14(日) 各日10:30-13:00

[対象] どなたでもご参加いただけます。

[定員] 各日7名 事前申込制、先着順

[参加費] 500円(別途本展観覧チケットが必要です)

クロマキールランド

「クロマキール合成」によって、実際にはそこにはない背景と人物を組み合わせたユニークな記念写真を撮影します。

[日時] 2018.9.22(土) 14:00-17:00

[対象] どなたでもご参加いただけます。

対話型作品鑑賞会

参加者で対話を交えながら作品を鑑賞します。本展チケット(当日消印)をご持参ください。*作品解説ではありません。

[日時] 2018.9.27(木)、10.25(木) 各日18:30-

最新情報、参加方法などの詳細はホームページをごらんください
*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

杉浦邦恵 うつくしい実験 ニューヨークとの50年

SUGIURA Kunié: Aspiring Experiments New York in 50 years

2F 2018.7.24 | 火 | - 9.24 | 月・振休 |

杉浦邦恵は1963年、20歳の時に単身渡米。1967年ニューヨークに拠点を移し、ポップアートを始めとするアメリカのアート・シーンに身をおきながら、写真と絵画を融合させる手法を展開し、モニター、ソラリゼーション、モノクロとカラー・ネガの併用、フォトグラムなど、制作のプロセスを重視した多様な表現で作品を発表し続けていきます。本展は、杉浦の50年を超える足跡と魅力に迫る、国内初の美術館における大規模個展です。

関連イベント 対談シリーズ

[日時] 2018.9.22(土) 14:00-15:30

榎木野衣(美術批評家・多摩美術大学教授) × 杉浦邦恵(出品作家)

[定員] 190名

[会場] 東京都写真美術館 1階ホール

入場無料 / 要入場整理券

※当日10:00より1階総合受付にて整理券を配布します。

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1・第3金曜日14:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

《電気服にちなんで Ap.2、黄色》2002年
黄色で調色されたゼラチン・シルバー・プリント
東京都写真美術館蔵



マジック・ランタン 光と影の映像史

The Magic Lantern: A Short History of Light and Shadow

B1F 2018.8.14 | 火 | - 10.14 | 日 |

スクリーンや壁に映像を投影する「プロジェクション」という行為は、映画の発明よりはるか以前に、映写機やプロジェクターの原型にあたる「マジック・ランタン」という装置の発明により、世界中に広がりました。本展では当館が誇る貴重な19世紀のマジック・ランタン・コレクションを紹介するとともに、気鋭のアーティスト・小金沢健人の新作で、現代の動向にも注目します。

シネマトグラフ
E.V.L. 1900年頃
フランス
東京都
写真美術館蔵



関連イベント

「江戸写し絵」社中旗揚げ公演「納涼江戸写し絵の夕べ」

[日時] 2018.8.24(金) 19:00-20:00 [定員] 50名

[会場] 東京都写真美術館 2階ロビー ※入場無料・先着順

マジック・ランタンをめぐるレクチャー

[日時] 2018.9.29(土) 14:30-16:30 [14:00開場予定]

[出演] 草原真知子(メディア文化論研究者)、

松本夏樹(映像文化史家)、岩田託子(中京大学教授)

[定員] 190名 [会場] 東京都写真美術館 1階ホール

入場無料 ※当日10時より1階ホール受付にて整理券を配布します。
整理番号順入場、自由席。

[主催] 東京都 東京都写真美術館 / 日本経済新聞社 [協賛] 凸版印刷株式会社

[観覧料] 一般 500(400)円 / 学生 400(320)円 / 中学生・65歳以上 250(200)円 ※()は20名以上の団体料金、8月31日(金)までの木・金18:00-21:00は学生・中学生無料 / 一般・65歳以上は団体料金*各種割引の併用はできません。 ※10月1日(月・都民の日)は入場無料

建築×写真

Architecture × Photographs (Tentative)

3F 2018.11.10 | 土 | - 2019.1.27 | 日 |

現存する最も古い写真は、1827年にジョセフ・ニセフォール・ニエプスによって撮影された、窓から見た「たてもの」の一角でした。写真と建築の関係は写真の黎明期の時代から密接にかかわっています。初期の写真技術では、人や動物など動くものは撮影には向いておらず、動かない建物は格好の被写体となったのです。

また19世紀末は都市開発が進み、街の変貌が著しい時期でした。壊されていく建築や出来たばかりの建築を記録するために、写真という新しい技術

が盛んに使用されました。そして現在にいたるまで、多くの建築が撮影されています。

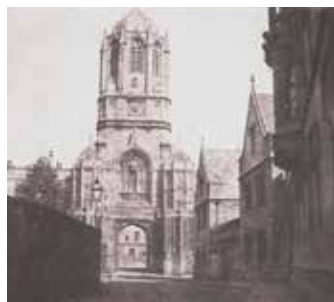
本展では東京都写真美術館のコレクションを中心に、さまざまな建築を捉えた写真を展示します。写真が発明された頃からどのような建築が写されてきたのか、そして現代の写真家がどのように建築とかかわって撮影をしてきたのかを紹介します。その中には、今ではすでに存在しないものや、実際に見ることが困難なものも少なくありません。写真家の眼を通した建築の魅力をご堪能ください。

コレクションによる 建築写真の歴史

当館コレクションより、建築を捉えたダゲレオタイプなどの初期写真から、20世紀初頭までの写真を展示する。



ジャン=バティスト・ルイ・グロ《ボゴタ寺院の眺め》ダゲレオタイプ 1842年



ウィリアム・H・フォックス=タルボット《自然の鉛筆》より《クライスト教会の門》カロタイプ 1844-46年



江崎礼二《江崎写真館》鶏卵紙 1870-79年



ウジェーヌ・アジェ《ラモワニオン館、パヴェ通り24番地》鶏卵紙 1898年



ベレニス・アボット《変わりゆくニューヨーク》より《ウォーター・フロント》1938年

【主催】東京都 東京都写真美術館

【観覧料】一般 600(480)円 / 学生 500(400)円 / 中高生・65歳以上 400(320)円 ※ () は20名以上の団体料金

*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

建築と写真

写真家の捉えた多様な建築の写真を紹介します。被写体は、世界中から多くの人が訪れる有名な観光名所から、信仰の対象であり足を踏み入れることが難しい伊勢神宮や、現在は存在しない丸城岩までさまざまです。さらにアントニ・ガウディや丹下健三をはじめ、だれもが一度は耳にしたことのある著名な建築家が捉えた作品を、写真家別に紹介します。



渡辺義雄《伊勢神宮》より《内宮正殿北西側全景》1953年



石元泰博《桂》より《中書院東庭から楽器の間ごしに新御殿を望む》1953-1982年



原直久《イタリア山岳丘上都市》より《チステルニーノ, 1984》1984年



村井修《モーメント》より《国立屋内総合競技場》1964年



奈良原一高《人間の土地》より《緑なき島-軍艦島:軍艦島全景》1954-57年



柴田敏雄《Second Schelde Bridge, Temse, Belgium》インクジェット・プリント 2013年 作家蔵



宮本隆司《丸城岩》より 1987年 作家蔵



細江英公《ガウディの宇宙》より《サグラダ・ファミリア #179》1977年

技法表記のない作品はすべてゼラチン・シルバー・プリント 所蔵表記のない作品はすべて東京都写真美術館蔵

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1・第3金曜日 14:00より。展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

関連イベント

対談シリーズ

会期中に、建築・土木の専門家や、写真家をゲストにお招きした、対談を予定しています。詳細は決定次第ホームページでお知らせします。

視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

障害の有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、言葉を交わしながら一緒に美術を鑑賞するワークショップです。

【日時】2018.12.9(日)10:30-13:00 【対象】どなたでもご参加いただけます。

【定員】各日7名 事前申込制、先着順。【参加費】500円

*申込方法など詳細は当館ホームページでご確認ください。



瀬本幹也《Le Corbusier》より《Villas la Roche-Jeanerret # 01》インクジェット・プリント 2017年 作家蔵
© Mikiya Takimoto, Courtesy of MA2 Gallery

小さいながらもたしかなこと 日本の新進作家 vol.15

Things So Faint But Real : Contemporary Japanese Photography vol.15

2F 2018.12.1|土|-2019.1.27|日|

東京都写真美術館は、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の場となるよう、さまざまな事業を展開しています。その中核となるのが、毎年異なるテーマを決めて開催している「日本の新進作家」展です。

シリーズ第15回目となる「日本の新進作家」展は「小さいながらもたしかなこと」をテーマに掲げ、自らの感性や考え方、アイデンティティやリアリティを手がかりに作品を制作する作家を取り上げます。

予測困難な自然災害や広がりを見せる経済格差、LGBTの人々に対する法的整備の遅れ等、個人をめぐる状況がゆれ動き、たしかなことを見出しにくい時代に、作家によって作品に込められた「たしかなこと」。

その一つ一つは決して大きなものではないのかもしれませんが、わたしたちに、この困難な時代を生き抜く勇気や希望を与えてくれます。本展では、作家それぞれの「小さいながらもたしかなこと」に迫り、その表現の射程を探ります。



上下ともに〈Family Regained〉より 2017年(参考図版)

森 栄喜 Mori Eiki, 1976-

石川県生まれ。2001年、パーソンズ美術大学写真学科卒業。写真集『intimacy』(ナノク社、2013年)で第39回木村伊兵衛写真賞を受賞。主な個展に「Family Regained」(KEN NAKAHASHI、2017年)等

ミヤギ フトシ Miyagi Futoshi, 1981-

沖縄県生まれ。2005年、ニューヨーク市立大学卒業。主な個展に「How Many Nights」(ギャラリー小柳、2017年)、「American Boyfriend: Bodies of Water」(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、2014年)等



《Sight Seeing/感光 #11》〈Sight Seeing/感光〉より 2011年(参考図版)



河合 智子

Kawai Tomoko, 1977-

愛知県生まれ。2001年、アカデミー・オブ・アート大学卒業。平成28年度文化庁新進芸術家海外研修員(ドイツ)。主な個展に「泉の起源について/On the Origin of Springs」(クンストラーハウス・ベタニエン、2018年)、「UTOPIA」(Gallery 916、2014年)等

《泉の起源について/On the Origin of Springs》2018年(クンストラーハウス・ベタニエン展示風景)(参考図版)



細倉 真弓

Hosokura Mayumi, 1979-

京都府生まれ。2002年、立命館大学文学部、2005年、日本大学藝術学部写真学科卒業。主な個展に「JJuu bbiilleeeee」(G/P gallery、2017年)、主な写真集に『Jubilee』(アートビートパブリッシャーズ、2017年)、『写真集 川崎』(サイゾー、2017年)等

図版左
《多摩川》(川崎)より 2016年(参考図版)
図版右
《BAD HOP》(川崎)より 2016年(参考図版)



石野 郁和

Ishino Fumi, 1984-

兵庫県生まれ。2012年、ロチェスター工科大学卒業。2014年、イェール大学大学院修了。2015年、「ジャパンフォトアワード2015」受賞、「キヤノン写真新世紀」佳作。2017年、初の写真集『Rowing a Tetrapod』(MACK)を刊行

図版左右ともに
《Untitled》(Melon Cream Soda Float)より 2017年(参考図版)

*作品はすべて作家蔵
*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

【主催】公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/東京新聞 【助成】芸術文化振興基金 【協賛】東京都写真美術館支援会員/凸版印刷株式会社 【観覧料】一般 700(560)円/学生 600(480)円/中高生・65歳以上 500(400)円 ※()は20名以上の団体料金

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2・第4金曜日14:00より、展覧会チケット(当日消印)をご持参ください。

関連イベント

詳細は決定次第ホームページでお知らせします。

写真新世紀展 2018

NEW COSMOS OF PHOTOGRAPHY

B1F 2018.10.27|土|- 11.25|日|



第41回公募優秀賞選出審査会

「写真新世紀」は、1991年の発足以来、国内外で活躍する優秀な写真家を多数輩出、新人写真家の登竜門として広く知られています。今年は第41回目の公募を実施。過去最高の応募となった1,992人の中から厳正な審査を経て、優秀賞7名、佳作12名が選出されました。本展では、それら受賞作品をご紹介するほか、昨年のグランプリ受賞トロン・アンステン&ベンヤミン・ブライトコフさんの新作個展「Another man's floor」も開催します。

グローバルに展開し進化する写真新世紀。力強い受賞作品の数々をぜひご覧下さい。

【主催】 キヤノン株式会社 【共催】 東京都写真美術館
【観覧料】 入場無料
◎お問い合わせ
キヤノン(株)写真新世紀事務局 03-5482-3904
◎ホームページ http://global.canon/ja/newcosmos/

マイケル・ケンナ写真展

MICHAEL KENNA A 45 Year Odyssey 1973-2018

B1F 2018.12.1|土|- 2019.1.27|日|

世界屈指の風景写真家、マイケル・ケンナの日本初の回顧展を開催いたします。ケンナは1953年イギリス生まれ、1977年アメリカに渡り、写真家として活躍。静謐で叙情を湛えたモノクロームの写真は多くのファンを魅了しています。長時間露光により、移ろう自然の神秘、多様な文化への憧憬を一葉の印画紙に焼き付けます。本展では、45年にわたるキャリアから代表作165点を展覧。ケンナの愛する日本の風景を始め世界各地で撮影した名作に加え、特別展示としてナチスの強制収容所跡を12年かけて撮影した連作や、人物を被写体とした連作なども日本で初めて展覧いたします。



White Bird Flying, Paris, France. 2007
Photo © Michael Kenna/RAM

◎お問い合わせ 》 ギャラリー・アートアンリミテッド 03-6805-5280

関連イベント 『マイケル・ケンナ講演会』

【出演】 マイケル・ケンナ(逐次通訳付)
【日時】 12.1(土)開場14:00 開演:14:30
【会場】 東京都写真美術館 1階ホール
詳細は決定次第ホームページでお知らせします。

*事業はやむを得ない事情で変更することがございます。

【主催】 RAM/ギャラリー・アートアンリミテッド 【共催】 東京都写真美術館
【観覧料】 一般 1,000(800)円/学生 800(640)円/中学生・65歳以上 600(480)円 ※()は20名以上の団体料金

1F HALL / 上映

最新の上映スケジュールはこちら▶



1F 『華 いのち 中川幸夫』

いけばな作家、中川幸夫のドキュメンタリー。花との極限の対話、闘い、おののきを経て、花の生命力そのものを鮮やかに浮かび上がらせ、想像を超える衝撃的な作品が次々に生み出されていく。流派を否定し、弟子を一切取らなかった孤高のいけばな作家は、極貧の中で花の生き、死に向かい合い続ける。長年にわたって書き綴られた創作ノートを通して、また本人が語る言葉で様々な創作誕生の秘密が明かされる。

【上映期間】 2018.8.18(土)-8.31(金) 【休映日】 2018.8.20(月)、8.27(月)
【上映時間】 18:30(1日1回)
【料金】 一般1,800円/学生1,500円/シニア・中学生以下・障がい者手帳をお持ちの方1,100円 ※当日一般料金について各種割引あり

以下の方は当日料金が割引になります。
各種割引 当館パスポート会員証提示、当館での展覧会・映画の半券提示、三越カード・伊勢丹カード・アトレビュー Suicaカード提示、(公財)東京都歴史文化財団が管理する施設の友の会会員証・年間パスポート提示 ※上映によって割引料金が異なります。詳細はお問い合わせください。



© 2018 Image10 All Rights Reserved.

◎お問い合わせ先
イメージ・テン Tel 090-3802-2760
映画公式サイト
http://hanainochi.com/

1F 3大テノール シネコンサート

「3大テノール 夢のコンサート」「3大テノール 世紀の競演」

ドミンゴ! カレーラス! バヴァロッチェ!
世界を魅了した夢の競演がスクリーンに甦る!

ブラシド・ドミンゴ、ホセ・カレーラス、ルチアーノ・バヴァロッチェ、オペラ界を代表するテノール歌手三人による「3大テノール」は、1990年、サッカーW杯イタリア大会決勝戦の前夜祭コンサートで初共演。奇跡と言われたその舞台は世界中で放映され、CDアルバムは空前の大ベストセラーに。その後3人のコンサートはW杯の度に催され、1996年に初めて実現した世界ツアーでは各地で8万人を超える観客が詰め掛け、世界中に「3大テノール」ブームを巻き起こした。

2007年にバヴァロッチェが世を去り、3大テノールの活動は幕を閉じたが、世界中の幅広い音楽ファンをクラシック音楽にいざなった功績は計り知れない。

今回の上映では、初公開となる秘蔵のライブ映像集「3大テノール 夢のコンサート」と、1990年ローマでの初共演コンサートを収録した「3大テノール 世紀の競演」の2作品を上映。世界中の音楽ファンが熱狂した夢の競演がスクリーンに甦る。

【上映期間】 2018.9.1(土)-9.21(金) 【休映日】 2018.9.3(月)、9.10(月)、9.18(火)
【上映時間】 13:00-「3大テノール 夢のコンサート」 15:00-「3大テノール 世紀の競演」 ※各回定員入替制 ※座席指定(前売券をお持ちの方はご鑑賞当日に受付にて座席指定券とお引替えください。10:00より当日全ての回の受付を開始します) ※未就学児の入場不可
【料金】 前売2,500円(税込)/当日2,800円(税込) ※各種割引はありません。チケット1枚につき、「3大テノール 夢のコンサート」または「3大テノール 世紀の競演」のいずれかの上映を上映期間中1回のみご鑑賞いただけます。



© C Major Entertainment All Rights Reserved.

◎お問い合わせ先
楽画会(がくがかい) Tel 03-3498-2508
映画公式サイト
http://www.gakugakai.com/

◎前売券の発売
公式サイトまたは当館のホームページを確認ください。

事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、
次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

《特別賛助会員》

キヤノン(株)
(株)資生堂
全日本空輸(株)
(株)ニコン

《賛助会員》

キヤノンマーケティングジャパン(株)
ゲッティイメージズジャパン(株)
大日本印刷(株)
東急建設(株)
凸版印刷(株)
富士フィルム(株)
(株)リコー

《特別支援会員》

アサヒグループホールディングス(株)
サッポロ不動産開発(株)
サッポロホールディングス(株)
(株)パラゴン

《支援会員》

(株)I&S BBDO
あいおいニッセイ同和損害保険(株)
アオイネオン(株)
(株)AOI Pro.
(株)アサソー ディ・ケイ
旭化成(株)
朝日新聞社
(株)朝日新聞出版
朝日生命保険(相)
アスクル(株)
(有)アスペン/POLARIS
(株)アマナ
(株)岩波書店
(株)潮出版社
(株)栄光社
(株)エージーピー
(株)エスジー
(株)ADKアーツ
(株)NHKアート
NHK営業サービス(株)
(株)NHKエデュケーショナル
(株)NHKエンタープライズ
(株)NHKグローバルメディアサービス
(株)NHK出版
(株)NHKビジネスクリエイト
(株)NHKメディアテクノロジー
エプソン販売(株)
エルメス財団
オリンパス(株)
(株)オンワードホールディングス

カールツァイス(株)
花王(株)
鹿島建設(株)
(株)KADOKAWA
カトーレック(株)
神奈川新聞社
(株)かんぽ生命保険
セイコー科学研究所
(株)キタムラ
キックマン(株)
(株)紀伊國屋書店
ギャラリー小柳
共同印刷(株)
(一社)共同通信社
空港施設(株)
(株)久米設計
グロリー(株)
ケンコー/トキナー/スリック
興亜硝子(株)
(株)弘亜社
(株)廣濟堂
(株)講談社
(株)光文社
(株)国書刊行会
(株)コスモスインターナショナル
(株)コーセー
コダック(同)
コダックアラリスジャパン(株)
(株)コバヤシ
小山登美夫ギャラリー(株)
(株)ザ・アール
三機工業(株)
産経新聞社
サントリーホールディングス(株)
(株)サンライズ
(株)ジェイアール東日本企画
JSR(株)
JXTGホールディングス(株)
(株)JT B
ジェイティービー印刷(株)
(株)シグマ
(株)実業之日本社
信濃毎日新聞社
清水建設(株)
(株)写真弘社
写真の学校/東京写真学園
シャネル(株)
(株)集英社
(株)主婦と生活社
(株)小学館
城西国際大学メディア学部
松竹(株)
信越化学工業(株)
(株)新潮社
(株)スタジオアリス

(株)スタジオエムジー
(株)スタジオジブリ
スターツ出版(株)
(株)SUBARU
住友化学(株)
住友生命保険(相)
(株)生活の友社
セイコーホールディングス(株)
成美製版(株)
双日(株)
ソニー(株)
損害保険ジャパン日本興亜(株)
第一生命保険(株)
第一法規(株)
(株)ダイケンビルサービス
台新国際商業銀行
大成建設(株)
(株)大丸松坂屋百貨店
大和証券(株)
(有)タカ・イシイギャラリー
高砂熱工業(株)
(株)高島屋
(株)宝島社
(株)竹中工務店
玉川大学芸術学部
(株)タムロン
(株)丹青社
千葉商科大学政策情報学部
(株)中央公論新社
中外製薬(株)
帝人(株)
(株)TBSテレビ
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)
(株)テレビ朝日
(株)テレビ東京
電源開発(株)
(株)電通
東亜建設工業(株)
東映(株)
東京海上日動火災保険(株)
東京急行電鉄(株)
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
(株)東京スタジオ
東京造形大学
東京総合写真専門学校
東京建物(株)
東京地下鉄(株)
東京テアトル(株)
東京都競馬(株)
(株)東京ドーム
(株)東京ニュース通信社
(学)専門学校 東京ビジュアルアーツ

(株)東京美術倶楽部
東京メトロポリタンテレビジョン(株)
(株)東芝
東宝(株)
(株)東北新社
(株)東洋経済新報社
(株)トキワ
(株)徳間書店
戸田建設(株)
トヨタ自動車(株)
(株)トロンマネージメント
(株)ニコンイメージングジャパン
日活(株)
日活(株)
(株)日経BP
日光ケミカルズ(株)
日産自動車(株)
(株)日本カメラ社
日本空港ビルデング(株)
日本経済新聞社
(株)日本広告社
(公社)日本広告写真家協会
日本コルマー(株)
(株)日本色材工業研究所
日本写真印刷コミュニケーションズ(株)
(公社)日本写真家協会
(公社)日本写真協会
日本写真芸術専門学校
(一社)日本写真文化協会
日本生命保険(相)
日本大学芸術学部
日本たばこ産業(株)
日本テレビ放送網(株)
(株)ニッポン放送
日本ロレックス(株)
(株)ニューアートディフェュージョン
野村證券(株)
(株)博報堂
(株)博報堂DYメディアパートナーズ
(株)博報堂プロダクツ
(株)ハースト婦人画報社
(株)ハーツ
パナソニック(株)
ぴあ(株)
ビービーメディア(株)
北海道 写真の町東川町
東日本旅客鉄道(株)
光写真印刷(株)
(株)ピクトリコ
(株)美術出版社
(株)ビックカメラ

(株)ビデオプロモーション
(株)ピラミッドフィルム
(株)ファーストリテイリング
(株)フェドラ
(株)フォトメディア
(株)フジテレビジョン
(株)ブラザークリエイト
(株)プリンスホテル
(株)フレイムマン
(株)文化工房
(株)文藝春秋
ベルボン(株)
北海道新聞社
(株)ホテルオークラ東京
(株)堀内カラー
本田技研工業(株)
毎日新聞社
(株)マガジンハウス
丸善(株)
マルミ光機(株)
(株)マンダム
(株)みずほ銀行
三井住友海上火災保険(株)
三井倉庫ホールディングス(株)
三井不動産(株)
(株)三越伊勢丹 三越恵比寿店
三菱地所(株)
三菱製紙(株)
三菱倉庫(株)
三菱電機(株)
三菱UFJ信託銀行(株)
(株)ミルボン
武蔵大学
明治安田生命保険(相)
森ビル(株)
ヤマトグローバルロジスティクスジャパン(株)
(株)吉野工業所
(株)ヨドバシカメラ
ライオン(株)
ライカカメラジャパン(株)
リコーイメージング(株)
リシュモン ジャパン(株)
モンブラン
(株)良品計画
(株)ロボット
(株)ワコウ・ワークス・オブ・アート
(株)ワコール

2F SHOP

ミュージアム・ショップ

NADIFT BAITEN

展覧会関連書籍はもちろん、季節のグッズも充実のミュージアムショップ。9月24日(月・振休)まで開催する『杉浦邦恵 うつくしい実験』展に合わせ、ニューヨークや現代アートに関する雑貨、書籍をご用意しております。ぜひ合わせてご覧くださいませ。

杉浦邦恵 著『ニューヨーク・アート、ニューヨーク・アーティスト』2,700円
『ニューヨーク美術案内』756円 『ニューヨーク、街歩きガイド。』1,058円
ソール・ライター A4クリアファイル 各432円
ソール・ライター ポストカード 各162円 ほか (価格はすべて税込)



詳細ページはこちら
↓
QRコード

営業時間/10:00-18:00(木・金は20:00まで ※8.31までの木・金は21:00まで)
TEL/03-6447-7684
定休日/毎週月曜日(そのほか美術館の休館日に準じます)

1F CAFE

カフェ

MAISON ICHI

BOULANGER-PÂTISSIER-TRAITEUR-CHARCUTIER

LUNCH MENU (11:30-15:00)
本日のキッシュ(自家製パン付き) 1,296円
冷製ローストビーフのプレート 1,296円
季節のスープとデリプレート(自家製パン付き) 1,296円

自家製パン、ドリンクはお持ち帰りできます
キッシュ各種 571円
自家製サンド 480円~ タルト各種 480円
スベルト小麦の田舎パン 1/4サイズ 430円 ホール1,620円
コーヒー 540円/ティー 540円 ジュース・アルコール類もあります。
メニューは予告なく変更される場合があります。(価格はすべて税込)



詳細ページはこちら
↓
QRコード

営業時間/10:00-19:00(木・金は20:00まで ※8.31までの木・金は21:00まで)
TEL/03-6277-3862 定休日/毎週月曜日(そのほか美術館の休館日に準じます)

(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(学)=学校法人、(公社)=公益社団法人、(同)=合同会社、(一社)=一般社団法人 (平成30年7月現在・五十音順)

SCHEDULE / スケジュール

展覧会・イベント・上映の最新情報は、
topmuseum.jpまたはこちらへ▶



	3F	2F	B1F	1F
2018 8	TOPコレクション たのしむ、まなぶ 夢のかけら(収)	杉浦邦恵 うつくしい実験 ニューヨークとの50年(企)	マジック・ランタン 光と影の映像史(収)	『返還交渉人 いつか、沖縄を取り戻す』 8.11(土・祝)-8.31(金)
9	8.11(土・祝)-11.4(日)	7.24(火)-9.24(月・振休)	8.14(火)-10.14(日)	
10		愛について アジアン・ コンテンツラリー(企)	写真新世紀展 2018 10.27(土)-11.25(日)	『華 いのち 中川幸夫』 8.18(土)-8.31(金)
11	建築×写真(収)	10.2(火)-11.25(日)	10.27(土)-11.25(日)	
12	11.10(土)-2019.1.27(日)	小さいながらもたしかなこと 日本の新進作家vol.15(企)	マイケル・ケナ写真展 MICHAEL KENNA A 45 Year Odyssey 1973-2018 12.1(土)-2019.1.27(日)	3大テノール シネコンサート 「3大テノール 夢のコンサート」 「3大テノール 世紀の競演」 9.1(土)-9.21(金)
2019 1				

収「ぐるっとパス 2018」対象の展覧会 「ぐるっとパス 2018」の詳細はこちら▶



東京都写真美術館 年間パスポート「TOP MUSEUM PASSPORT 2018」発売中

当館の展覧会を無料または割引でご観覧いただけるお得なパスポートです。 販売価格:3,240円(税込) 有効期間:2018年4月1日(日)より2019年3月31日(日)
販売場所:当館1階総合受付

スケジュール内の(収)は無料、(企)は4回まで無料、その他は割引料金となります。特典等の詳細は、当館ホームページのご利用案内よりご確認ください。

割引料金について

割引対象

展覧会を割引料金にてご観覧いただけます

- 20名以上の団体のお客様 観覧料が2割引
- 各種会員の方 観覧料が2割引
 - JRE CARD(2018年7月2日にアドレブビュー-Suicaカードより移行)
 - MIカード(三越伊勢丹グループのクレジットカード)
 - ウェルカムカード(訪日外国人向けの割引カード)
 - 当館映画鑑賞券提示者
 - 財団他館友の会、年間パスポート会員
 - JR東日本「大人の休日倶楽部」カード
- 親子ふれあいデー(毎月第3土曜日と引き続き日曜日が対象) 観覧料が5割引
 - 都民で18歳未満のお子様を連れてご家族が対象です。 ※詳しくはお問い合わせください。

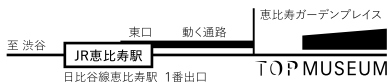
無料対象

展覧会を無料でご観覧いただけます

- 小学生以下
 - 障がい者手帳提示者及びその介護者(2名まで)
 - 被爆者手帳提示者及びその介護者(2名まで)
 - 愛の手帳・療育手帳提示者及びその介護者(2名まで)
 - 精神障害者福祉手帳提示者及びその介護者(2名まで)
 - 東京都内在住・在学の中学生
 ※教育活動(スクールプログラムなど)で当館をご観覧希望の生徒と引率者は事前申告が必要です。 当館までお問い合わせください。
- シルバーデー(毎月第3水曜日)
 - 65歳以上の方 ※証明できるものの提示が必要です

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099 topmuseum.jp

開館時間 10:00-18:00(木・金は20:00まで)。ただし、8月31日(金)までの木・金曜日は21:00まで開館。2018年12月28日は10:00-18:00、2019年1月2日・3日は11:00-18:00、1月4日は10:00-18:00。入館は閉館の30分前まで。
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始(2018年12月29日-2019年1月1日)。※10月1日都民の日は開館。

東京都写真美術館ニュース「アイズ18」96号 □発行日:2018年8月20日/企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 普及係 □印刷・製本:株式会社公栄社 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2018
□本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、原則として消費税込みの価格です。事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

Tokyo Tokyo
Festival